



サステナビリティレポート 2022

ダイジェスト版



アース製薬株式会社

For sustainable EARTH

いのち
生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。

CONTENTS

トップメッセージ	4
アース製菓のサステナビリティ	6
SDGsへの貢献に向けた取り組み	8
マテリアリティ特定	10
マテリアリティ 気候変動への対応	12
マテリアリティ 地球環境問題への配慮	14
マテリアリティ 持続可能な調達の推進	18
マテリアリティ 多様な人財の活躍を支える職場の実現	20
マテリアリティ 安心で快適な暮らしに貢献する製品・サービスの提供	24
経営基盤の強化	28
事業を通じた社会課題の解決	29

感染症トータルケアカンパニーとして世界の人々の安全

これまでの事業基盤を ベースに、さらにその先へ

アースグループは、昨年より「感染症トータルケアカンパニー」を全面に掲げて活動を進めています。

世界は今なお、新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされています。事業への取り組み方や働き方が一変するような急激な変化の中にあって、虫媒介感染症を予防する虫ケア用品をコア事業としてきた当グループとしても、創業以来、事業の根底にある「感染症に立ち向かう」という考え方に立ち返り、より広いフィールドでその使命を果たしていきたいと考えています。

もちろんそこには、これまでのアースグループを支えてきた基礎研究の地道な継続があります。そこから周囲に目を向けると、新型コロナウイルス感染症を背景として、当グループが得意とする「除菌」「消臭」といった分野に、取り組むべき

ニーズがあることがわかりました。

きっかけとなったのは、日本発の革新的な酸化制御技術「MA-T™」です。「MA-T™」の普及と価値向上について、オープンイノベーションや産官学との連携を通じて新たな用途を拡大し、これまでにない異業種とも手を組んで課題を解決するなど、事業のフィールドを広げています。

コロナ禍での経験を 次の時代に活かしていく

一方では財務基盤の立て直しという課題に取り組む中で、今までのやり方とは変えていこうという意識も強く、これまでに確立してきた技術や営業の基盤を活かしながら、新たな市場を開拓することができました。社内的にも、コロナ禍によってリモートワークやウェブ会議などを導入しましたが、アフターコロナにおいても、その成果を検証しながら良いものは残し、そうでないものは改めていくという姿勢を貫き、

状況に応じた最善策を選択していきたいと考えています。

アース製薬は、感染対策を取りながら開催されたさまざまなスポーツイベントなどにおいて、「虫ケアステーション」を設置し、虫ケアの啓発活動を実施しています。

こうしたスポーツイベントなどでの虫ケア啓発活動は、事業そのものを通じて社会課題の解決を目指す「CSV経営」の一環です。2022年10月に、社長直轄の部署として「CSRサステナビリティ推進部」を設置して、さらに活動を強化しています。

「事業を通じて社会に貢献する」 をわかりやすく

私は、ESGやSDGsといった社会に対する考え方は、新しい考え方ではなく、もともと私たちが持っていたものであると思います。それがはっきりと明文化されたことで、これまで自分たちがやってきたことと照らし合わせ

で快適な暮らしを実現していきます

て、より意識して活動していくことができるようになりました。

会社では、「言わなくてもわかってくれるだろう」「ちゃんとやっていてくれるだろう」という思い込みが、失敗の原因になりがちです。やっていることを外に対してもきちんと表明することで、社会に対して約束し、それを果たしていくことができると思います。

2021年5月には、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に署名し、参加企業として登録されました。事業を通じた社会貢献活動を国際基準で「見える化」とともに、グローバルにおいても、アースグループのESG経営をさらに推進していきます。

社会のため、お客様のために なることを最優先に

SDGsをはじめ、サステナビリティの目標は長期的な視点に立っており、目標もハードルが高く厳しいものが多くあります。アースグ

ループとしては、できることとできないことを選別しながら、できることは必ずやっていきます。環境負荷の低減など厳しい基準もありますが、最後は社会のため、お客様のためになるということを優先順位として、一つひとつ取り組んでいきたいと思っています。

お取引先様に対しても、アースグループの考え方に対して共感を求めていく必要があります。グローバルで見ると、国や地域によって温度感が違うなど課題が多くありますが、特に新しく手を組むところには、必ずアースグループの考え方を提示して一緒にやっていきます。目先の利益よりも、私たちの事業が世の中にどういう価値を生むかということが一番重要です。それが虫ケアをさらに進めて、「感染症トータルケアカンパニー」を標榜した理由です。その点社内にも浸透させ、事業そのものが社会に貢献している会社で働くという喜びを、従業員にも感じてほしいと思います。

感染症ということ考えたとき、事業の展開としてはグローバルを意識せざるを得ませ



んし、広く地球全体の話だと思っています。世界の人々が安心して暮らせる社会をつくるために、アースグループがお役に立てるという自覚と責任を持って、持続的に成長しながら、新しいことにも挑戦していきます。

2022年12月



代表取締役社長CEO

川端克宜

アース製薬のサステナビリティ

サステナビリティの基本方針

当社は、2021年にサステナビリティ基本方針を策定しました。策定にあたっては、事業を推進する各部署の代表メンバーが集まり、サステナビリティを浸透させるために必要な要素や、言葉、アースグループらしさを尊重しながら議論を重ねました。この方針をもとに、持続可能な事業の実現に向けた取り組みを推進していくことを社内外に示していきます。

アース製薬のサステナビリティ基本方針

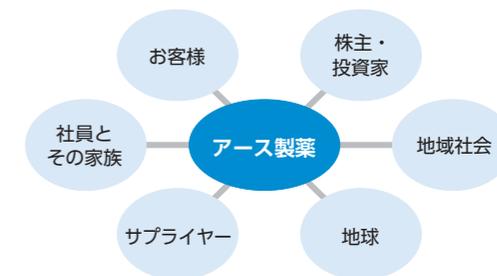
アース製薬は、「^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念のもとで、ステークホルダーの皆様と協働して、サステナビリティを巡る課題に取り組み、持続的な企業価値の向上とサステナブルな社会の構築に貢献します。

サステナビリティの推進体制

当社は、サステナビリティ基本方針のもと、環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)の3分野を俯瞰し、サステナビリティ活動を効果的かつ円滑に推進していくため、グループ経営統括本部内に「CSRサステナビリティ推進部」を設置しました。また、社長が委員長を務め、現場でサステナビリティ活動を推進する常設組織「CSRサステナビリティ推進委員会」を設置し、CSRサステナビリティ推進部とともに、活動計画や目標・KPIの設定、目標・KPIの全社的な共有、目標達成に向けた取り組みを推進しています。進捗状況のモニタリング、活動内容の社内共有やサステナビリティレポート、ESGデータブックなどの作成を行い、ステークホルダーの期待を踏まえた適切な情報発信にも取り組みます。CSRサステナビリティ推進委員会で協議された内容や活動状況は定期的に経営層へ報告され、経営層による検討・意思決定が必要な重要事項については取締役会にて報告・検討されています。

アース製薬のステークホルダー

当社は、「お客様」「社員とその家族」「サプライヤー」「株主・投資家」「地域社会」など、さまざまなステークホルダーの皆様を支えられて事業活動を行っています。スローガンである「地球を、キモチいい家に。」の実践には、各ステークホルダーとのコミュニケーションが重要であると考えており、一方的な情報発信ではなく対話ができる環境づくりを目指しています。



SDGsへの貢献に向けた取り組み

「持続可能な開発目標 (SDGs*)」は、2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」において、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会などの課題に取り組むために2030年までに達成すべき目標として掲げられたものです。

17の目標と169のターゲットからなり、193カ国が署名した国際的な政策目標です。当社でも、今後目指すゴールを定め、ステークホルダーと協力しながら、これらの目標達成に向けた事業活動を積極的に推進しています。

*SDGs : Sustainable Development Goals



【当社が注力するテーマ】

感染症

虫ケア用品を通じた虫媒介感染症撲滅への貢献 (SDG 3.3)

地球温暖化に伴う虫の生息域の拡大や外来生物の増加により、虫が媒介する感染症のリスクが増大しています。当社は、虫ケア用品を通じて虫を媒介して罹患する恐れのある感染症の予防に貢献します。



口腔内環境

オーラルケア用品の普及を通じた口腔衛生への貢献 (SDG 3)

口腔環境を起因とした疾病リスクの存在を社会課題として認識し、オーラルケア用品の普及を通じて口腔衛生に貢献します。



環境

廃棄物削減に向けた季節製品の返品削減 (SDG 12.5)

事業プロセスにおいて発生する返品およびこれに伴う廃棄を、事業だけでなく環境面でのリスクと捉え、これらをお取引先様との協業により削減しています。



製品ライフサイクルを通じた環境・健康上適正な化学物質の管理 (SDG 12.4)

製品ライフサイクル全体の環境負荷を意識するとともに、事業活動の中で投入した資源とその活動により生じた環境負荷を定量的に把握し、適正に管理します。

工場、オフィス、物流におけるCO2排出量の削減 (SDG 13.1)

工場、オフィス、物流などバリューチェーン上におけるCO2の排出量削減に取り組んでいます。環境負荷を低減するために生産ラインや使用



エネルギーを工夫し、太陽光パネルによる発電などにも取り組みを進めていきます。

自然災害などに対する事業のレジリエンスの強化 (SDG 13.1)

自然災害発生時のリスクや被害を最小化すべく、平時よりレジリエンスの強化を図っていきます。内閣官房国土強靱化推進室が策定したレジリエンス認証を取得し、本社や研究所、工場などで災害発生時の対策に取り組んでいます。

労働環境

ダイバーシティの推進、働きがいのある仕事と職場の創出 (SDG 5.1/5.5/8.5)

「人がすべて」という価値観のもと、職場で働く仲間の多様性と人権を尊重し、公正で公平な処遇に努めることで、自らの個性を活かし誰もがいきいきと働ける職場づくりを目指します。



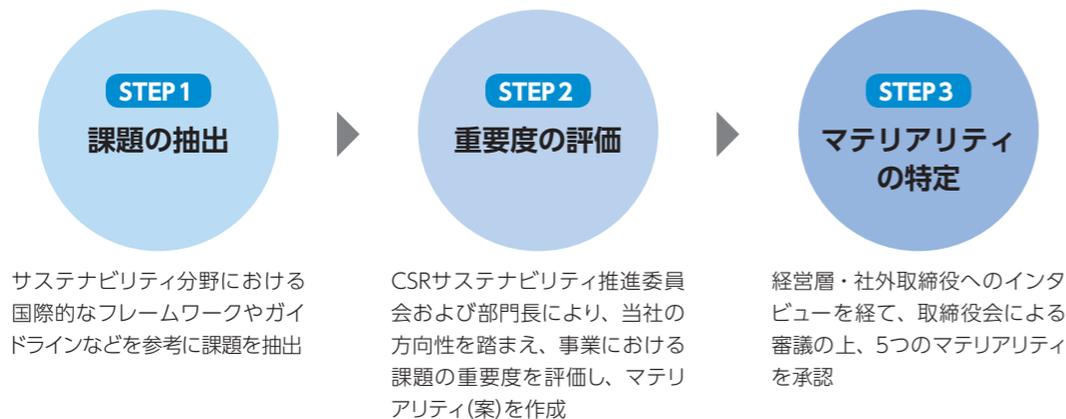
マテリアリティ特定

ステークホルダーの皆様のご期待にお応えし、アースグループが長期にわたり発展し続けるためには、さまざまな社会課題の企業活動への影響を認識・評価し、経営上の重要課題を明確にする必要があると考え、2021年にサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)を定めました。

今後、当社グループの事業特性や経営資源を活かしたサステナブルな取り組みを行っていくため、重点テーマと、それに紐づいた目標・KPIを策定しています。

【マテリアリティの特定プロセス】

以下のプロセスでマテリアリティを特定しました。



【アース製薬のサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)】

マテリアリティ (重要課題)	重点テーマと主な施策	目標・KPI
気候変動への対応	CO ₂ 排出量を削減します。	CO ₂ 排出量削減：2020年比で(Scope 1, 2) ●14%削減(2023年) ●28%削減(2026年) ●46%削減(2030年)
	電力の再生可能エネルギー化を進めます。	再生可能エネルギー化： ●工場の再エネ化 [再エネ率60%](2023年) ●研究所の再エネ化 [再エネ率90%](2026年) ●オフィス*の再エネ化 [再エネ率95%](2030年) *テナントオフィスを除く
地球環境問題への配慮	ものづくり(研究開発から生産)に係わる水の使用効率を向上させます。	水の使用効率の向上：2020年比で ●3%向上(2023年) ●6%向上(2026年) ●10%向上(2030年)
	循環型社会を目指し、資源を有効に活用します。	工場・研究所からの産業廃棄物等のゼロエミッション： ●処理委託先の状況調査・見直し(2023年) ●工場と研究所のゼロエミッション(2026年) ●工場と研究所のゼロエミッションの維持(2030年)
	アースECO基準を定め、環境に配慮した製品の拡大を推進します。	アースECO基準概要
持続可能な調達 の推進	環境などに配慮した包装材料の調達を推進します。	森林認証紙の使用率： ●使用比率を10%以上(2023年) ●使用比率を30%以上(2026年) ●使用比率を70%以上(2030年)
多様な人材の活躍を支える 職場の実現	年次有給休暇の取得を促進します。	有給休暇取得率：70%以上を維持(2023年、2026年、2030年)
	女性活躍推進のため、女性管理職相当に占める女性の割合を向上させます。	女性管理職比率： ●10%以上(2023年) ●18%以上(2026年) ●30%以上(2030年)
安心で快適な暮らしに貢献する 製品・サービスの提供	お客様の満足と信頼を損ねる品質重大事故をゼロにするため、自社工場、製造委託先工場の定期品質監査実施率を向上させます。	定期品質監査実施率：100%を維持(2023年、2026年、2030年)
	関連法令を遵守し、違反につながる重大事故をゼロにするため、教育訓練年間計画の実施率を向上させます。	教育訓練の実施率：100%を維持(2023年、2026年、2030年)

気候変動への 対応



環境認識

世界的に最も深刻な環境問題である気候変動の緩和とそれへの適応は、中長期的に当社の事業拡大に影響を及ぼす可能性があります。また、気候変動による平均気温の上昇、降水パターンの変化をはじめとした異常気象の激甚化などが、当社事業のバリューチェーン全般に影響を与える可能性もあります。こうした気候変動への対応は、中長期的な企業価値に係わる経営課題であると認識しています。

基本的な考え方

当社は、「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」ことを目指す企業として、地球環境と調和した事業活動を行っています。気候変動問題とそれへの対応は、企業価値に係わる重要な経営課題であると認識し、全ての事業において課題解決に向けて積極的に取り組んでいく所存です。

脱炭素社会への移行に貢献するため、当社は下記に取り組めます。

KPIは、11ページ参照

- CO₂排出量を削減します。
- 電力の再生可能エネルギー化を進めます。

体制

代表取締役社長CEOがCSRサステナビリティ推進委員会の委員長として、気候変動対応に関する方針策定、戦略立案、リスク管理体制の整備、目標と指標の策定および進捗状況についての管理・監督の直接的な責任を負っています。また、戦略協議会*での事前の諮問を経て、気候変動対応に関する方針・戦略の決定・見直しを行うとともに目標の達成状況などを取締役会へ報告することにより、気候変動対応課題に関する取締役会の監督を受ける体制を整備しています。

*戦略協議会

取締役会 上程事項、代表取締役社長CEO決裁事項など重要事項の事前審議機関
議長：代表取締役社長CEO

構成メンバー：代表取締役社長CEOが任意で指名する執行役員
開催頻度：適宜開催

気候変動への対応に関する取り組み

当社では、気候変動を抑制する、あるいは気候変動に適応するための取り組みを実施しています。

●省エネルギーの取り組み

当社の使用エネルギーの大半を消費する工場・研究所において、電力の「見える化」システムを導入しました。さらに、「省エネ推進委員会」「アースグループ生産部門交流会」を設け、アースグループ全体の省エネルギー活動にもつなげています。



電力の「見える化」システム

●再生可能エネルギーへの転換

赤穂工場では生産棟に太陽光発電設備を設け、さらに関西電力株式会社が提供する「再エネECOプラン」により再生可能エネルギー由来の電力に切り替えることで、実質的に使用電力のCO₂排出量ゼロを実現しました。今後も当社のCO₂排出量削減目標である「2030年までに2020年度比46%削減」に向けて、再生可能エネルギーを工場、研究所、オフィスに拡大する予定です。



マテリアリティ「気候変動への対応」の詳細は、WEBサイトをご覧ください。



地球環境問題 への配慮



環境認識

持続可能な循環型社会形成の観点から、世界規模での環境汚染および資源不足が問題となっています。当社にとって、バリューチェーン全体に係わる環境問題に配慮することは、当社事業の持続可能性に直結する課題です。資源の有効活用と廃棄物削減に向けた当社の取り組みは、原材料調達から製品設計・製造、使用、廃棄にいたる各段階での環境負荷低減による事業リスクの軽減のみならず、当社ブランドおよび企業価値の保全・向上に貢献するものであると認識しています。

基本的な考え方

当社は、「^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」を基本理念に、あらゆる事業活動において地球環境保全に配慮し、積極的に世界の人々の暮らしに貢献することを宣言しています。現在、地球規模での環境汚染や資源不足などが問題となっていますが、バリューチェーン全体に係わる環境問題を当社事業のみならず地球の持続可能性に直結する課題と捉え、環境負荷低減に向けた取り組みを着実に推進していくことを基本姿勢としています。

地球環境問題に配慮し、環境負荷低減に貢献するため、当社は下記に取り組みます。 KPIは、11ページ参照

- ものづくり(研究開発から生産)に係わる水の使用効率を向上させます。
- 循環型社会を目指し、資源を有効に活用します。
- アースECO基準を定め、環境に配慮した製品の拡大を推進します。

体制

当社では、地球環境問題の解決に向け、環境マネジメント体制を整えています。



地球環境問題に関する取り組み

当社では、地球環境問題に配慮した取り組みを実施しています。

環境に配慮した製品開発

●サステナブルな製品開発

当社では製品液剤の濃縮化により、プラスチック量の削減だけでなく、液剤の絶対量の減量により、製造や輸送によって排出されるCO₂量の削減も考慮しています。軽くて持ち帰りやすい、置き場所を取らないなど、お客様の使いやすさと環境への配慮を両立した製品開発に取り組んでいます。

●ロングライフ化

製品のロングライフ化はお客様の利便性向上だけでなく、省資源や家庭ごみ削減にも寄与します。既存の製品も少しでも長く使える改良を重ねています。

●カイゼン提案活動

各部署から若手メンバーで構成されたカイゼン推進プロジェクトを2019年に立ち上げました。「便利グッズコンテスト」など、新しい活動を進め、提案数は前年を超え5,290件(前年比114%)、その効果金額は2,720万円です。今後も職場改革を進めていきます。

●賞味期限の延長

美容・健康食品部門においても、世界的な課題のフードロス削減へ貢献すべく、取り組みを実施しています。原材料、製造過程を見直すことにより、「プラセンタCゼリー」など6製品で賞味期限を18ヵ月から25ヵ月に延長しました。

●3R視点での製品づくり

1. リデュース(減量)の視点

(参考例) 消臭芳香剤 スッキーリ!



▶ 88アイテムに関してプラスチック使用量を約251t削減

2. リユース(再利用)の視点

(参考例) らくハピアルコール除菌 EX420mL 本体



▶ 詰め替えによるボトルの再利用ができる製品が17アイテム。詰め替え用はフィルムのためボトルよりプラスチック使用量が少なく、約252tを削減

3. リサイクル(再生)の視点

(参考例)



▶ 再生プラスチック使用は68アイテムあり、年間で合計約1,084t(昨年の約1.5倍)
▶ 紙製の容器を使用している154アイテムのうち約87%で再生紙を採用

●モンダミン濃縮タイプ

モンダミンの高い効果と使いやすい香味はそのまま、濃縮化させる技術の開発に成功。濃縮タイプは、通常タイプと使用回数で比較すると、廃棄プラスチック量を約72%削減。



この1本で特大ボトル(1080mL)約2本分(1回あたり2mL使用)

●液残りゼロの再定義と環境配慮型リニューアル

「スッキーリ」は、香りを含む液体ボトルを上にする事で、「最後の一滴まで残さず使い切る」ことができる、持続可能な社会に対応した設計。容器の1製品あたりプラスチック使用量も14~17%削減(年間180t削減予定)。



●環境に配慮した販促物

セールスリレーション課は、お客様の声から店舗の情報、営業の動向などのセールスに関わる一連の情報をつなぐ役割を担っています。特に販促物を作製する際は、重量や使いやすさ、ごみの削減、プラスチック削減、FSC®森林認証紙の積極的使用、運搬時の環境負荷の軽減に配慮して、人にも環境にもやさしい取り組みをしています。



外装箱不要の販促物。梱包用の箱の面に訴求などを印字することにより、配送後廃棄される外装箱(段ボール)の削減に貢献



マテリアリティ「地球環境問題への配慮」の詳細は、WEBサイトをご覧ください。

アースECO基準

当社は、サステナブルな環境の取り組みの実現に向け、環境配慮型の商品づくりを推進するため独自の環境基準「アースECO基準」を定めました。「アースECO基準」は、SDGsにおける17の目標のうち環境や製造に関連した6項目の達成を念頭に置いて設計された自主基準です。2023年より、「アースECO基準」を満たした商品に「Act For ECOマーク」を表示していきます。



持続可能な調達の推進



環境認識

「^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念に基づき、持続可能な調達を推進します。全てのお取引先様とのパートナーシップを構築し、公正・公平で倫理的な関係を保ちながら、人権・安全衛生・環境に配慮した調達を推進することが、当社の企業価値創造につながるとともに社会全体の持続可能な発展に貢献すると認識しています。

基本的な考え方

当社は、「^{いのち}生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念を掲げ、これを実現すること自体がCSR(企業の社会的責任)への実践であると考えています。その中において調達活動は、まさに地球との共生なくしては成り立たないものであり、その実現のためには、社会全体の持続可能な発展に貢献することを目的としたCSR調達への取り組みを、お取引先様とともに推進していく必要があると考えています。

2017年にアースCSR調達ガイドラインを掲げてCSR調達に取り組んでまいりましたが、CSRに関する近年の動向や国際社会の要請などに鑑み、2020年8月に同ガイドラインを改定し、定期的にお取引先様への周知を行っております。

持続可能な社会と環境に貢献するため、当社は環境などに配慮した包装材料の調達を推進します。 **KPIは、11ページ参照**

調達方針

アースCSR調達ガイドライン

持続可能な調達に関する取り組み

当社では、持続可能な調達の実現に向けた取り組みを実施しています。

●お取引先様への周知活動

お取引先様に「調達方針」および「アースCSR調達ガイドライン」をご理解いただき、当社とともにその内容を実践していただくため、次の活動を進めています。お取引先様自身のCSR取り組み状況の再認識と継続的な向上のために、CSRセルフ・アセスメント質問表への回答を依頼しています。この活動は2017年より実施しており、2022年6月現在では、お取引先様224社中198社の原材料メーカー・生産

委託先から回答を得ています。これらのご協力をいただいたCSRセルフ・アセスメント質問表の回答・集計結果をもとに、個別面談などでお取引先様と結果を共有し、社会全体の持続可能な発展に貢献していかねばならないと考えています。今後も新規のお取引先様へのこの活動を継続し、また、間接的なお取引に関しても同ガイドラインの主旨に沿った原材料の調達を進めてまいります。

●FSC®森林認証

2020年より、「バスロマン」の紙缶を全てFSC®森林認証紙(適切に管理されていると認められた森林から生産された木材や、適切な森林資源の使用につながるその他の原材料を使用しして作られた紙)に変更しました。今後も、環境に配慮した責任ある製品をお客様に提供できるよう、製品開発・原材料調達に取り組んでいきます。



バスロマン
ほっこりゆずの香り



責任ある森林管理
のマーク
FSC® N003327



マテリアリティ「持続可能な調達の推進」の詳細は、WEBサイトをご覧ください。



多様な人財の活躍を支える職場の実現



環境認識

アースバリュー「人がすべて」の価値観に基づき、多様な人財の活躍を支える職場の実現を目指します。従業員の健康・安全に配慮した職場環境を整備し、人権を尊重し多様性を確保した公正で適切な処遇により、従業員一人ひとりが成長できる働きがいのある職場を実現することが、当社の長期的な価値創造につながると認識しています。

基本的な考え方

当社グループは、アースバリュー「人がすべて」の価値観に基づき、多様な人財の活躍を支える職場の実現を目指します。

当社グループは、経営理念や経営目標を実現するための人財に対する施策を明文化するために、「アース人財理念」および「アース人財マネジメント方針」を策定しています。

アース人財理念

アース人財マネジメント方針

多様な人財の活躍を支える職場を実現するため、当社グループは下記に取り組みます。 **KPIは、11ページ参照**

- 年次有給休暇の取得を促進します。
- 女性活躍推進のため、女性管理職相当に占める女性の割合を上昇させます。

多様な人財が活躍できる職場を目指して

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

当社では「アースグループグローバル行動指針」において、人権侵害の防止、多様性(個性)の受容と自主性の発揮を規定し、アースグループの全役職員が、生活・習慣・文化・法律・規制などが違う国々において事業活動を行う上で守らなくてはならないルールと考えています。

アースダイバーシティ宣言

従業員の健康・安全に配慮した職場環境のために

健康経営

従業員の健康管理を重要な経営課題と捉え、健康経営を具体的に推進するために2019年「アース健康宣言」を制定し、従業員とその家族の心身の健康増進に取り組んでいます。2020年、経済産業省と日本健康会議が共同で選ぶ「健康経営優良法人2021 ～ホワイト 500～」に初認定を果たし、2021年、2022年と連続して認定されました。

アース健康宣言



2022
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

体制

【安全衛生への取り組み】

健全で安全な職場環境を実現するため、次のような委員会や部会を設置し、活動を実施しています。

- 安全衛生委員会および衛生委員会
- 安全衛生部会
- 安全運転管理活動
- コンプライアンス委員会(内部通報窓口含む)

【「健康経営」の組織体制】

上席執行役員を委員長とする全社横断の「従業員と家族の健康を推進する委員会」を組織し、健康経営年間計画に基づく月に1度のミーティングをはじめ、社内外への情報発信や健康セミナー、オフィスでの予防接種などの実施に取り組んでいます。

多様な人財の活躍を支える職場の実現に関する取り組み

当社では、多様な人財の活躍を支える職場を実現するため、さまざまな取り組みを実施しています。

「人材」から「人財」へ

アース製薬は、社員を会社発展の原動力となる価値あるかけがえないものとして、「人材」ではなく「人財」と捉え、「アースバリュー」で“全員参画、コミュニケーション、人がすべて”の

3つを唱えているように人財を中心に考えています。人事制度（採用・教育研修、人事異動、給与・評価制度、働き方改革、ダイバーシティなど）の施策を整備することにより、社員の働きがいを引き出し、能力強化にも取り組みます。

人財育成に関する取り組み

当社では、自律した人財育成を目的として、社員のモチベー

ションやキャリアアップ、知識と能力の向上を目指して階層別研修や目的別研修を実施しています。



新入社員研修(商品講義)の様子



管理職研修

ハラスメント防止の取り組み

アース製薬では、パワーハラスメント、セクシャルハラスメントや性別・妊娠・出産・育児休業・介護休業などに関するハラスメント行為禁止を就業規則に定めています。また、正しく「ハラスメント」を理解し、防止することを目的と

して、全社員に向けてオンライン・対面にてハラスメント講習を継続的に実施しています。また、社員が安心して相談できるよう、『ハラスメント・人間関係ホットライン』や『産業保健師による社内相談窓口』も新たに設置し、ハラスメントのないいきいきとした働きやすい職場環境の実現を目指しています。

評価・処遇に関する取り組み

評価は社員の雇用管理区分に応じて実施し、人財マネジメントにおける、役割や給与などの処遇の決定と、チャレンジでき

る自律した人財育成に活かし、評価の透明性の確保と上司の説明責任を明確化することで、納得して働ける環境づくりと、社員の成長をサポートすることに努めています。

ダイバーシティ&インクルージョンに関する取り組み

●女性社員のさらなる活躍に向けた推進

当社の社員のうち約4割が女性社員です。ライフステージが変化しても、意欲高く働き続けられるよう、誰もが働きやすい環境整備に取り組んでいます。アース製薬では、2030年に女性管理職比率30%の達成を目指して、キャリアを考える研修を実施するなど取り組みを継続していきます。

●障がい者雇用の推進

当社における障がい者雇用率は2.45%と法定雇用率を遵守しています。

●LGBT施策

LGBTに関しても、取り組むべきダイバーシティの大切なテー

マの一つとして、2021年は、LGBT/SOGI（ソジ）についての基本的内容を学ぶe-learningを実施、2022年は社内規程の整備、社外講師を招いてのセミナー実施や、LGBTに関する相談窓口を設置しました。

●ワークライフバランスの推進

当社では、子育て、介護や私傷病の対応が必要な時期に勤務との両立を図ることができるよう、ライフサポートに必要な制度を整えています。



働き方改革、ワークスタイル改革の取り組み

労働時間の適正化、休暇取得推進とともに、柔軟な働き方を実現していくために、在宅勤務制度、時差勤務制度を導入し、新しい働き方のスタイル実践に取り組んでいます。また、

申請書類の電子化（ペーパーレス化）や電子印鑑の導入、書類保管スペースの縮小などオフィスのフリーアドレス化推進のために必要なITインフラの対応も実施することで、場所に捉われずに働くことができる柔軟なワークスタイルに対応した環境の構築を進めています。



会議改革ポスター



社員が自由に利用できるAct café



マテリアリティ「多様な人財の活躍を支える職場の実現」の詳細は、WEBサイトをご覧ください。



安心で快適な暮らしに貢献する製品・サービスの提供



環境認識

当社のものづくりにとって、お客様目線に立った高品質で安心・安全な製品・サービスを提供し続けることが最も重要な社会的責任です。当社は、この社会的責任を確実に果たしていくことが、企業価値を保全・向上させるための絶対条件であり、当社の企業価値を形成する礎であると認識しています。

基本的な考え方

私たちアースグループは、経営理念に基づき、製品開発、資材調達、生産、物流、販売、お客様とのコミュニケーションのバリューチェーン全体で、お客様に安心・安全な製品やサービスをお届けすることを追求しています。

1. お客様のお気づきに真摯に耳を傾け、安心・安全な製品やサービスの提供を通じて、新たな価値を創造します。
2. 商品が消費される瞬間まで品質を追求することで、お客様に信頼されるブランドを築きます。
3. 法令遵守はもとより、アース独自の「品質マネジメントシステム」の考え方に基づき、品質に関する各国・各地の情報を把握し、安心・安全な製品の品質向上を図ります。

アース製薬の研究開発 基本方針

アース製薬の品質保証 基本方針

アース製薬のお客様相談対応 基本方針

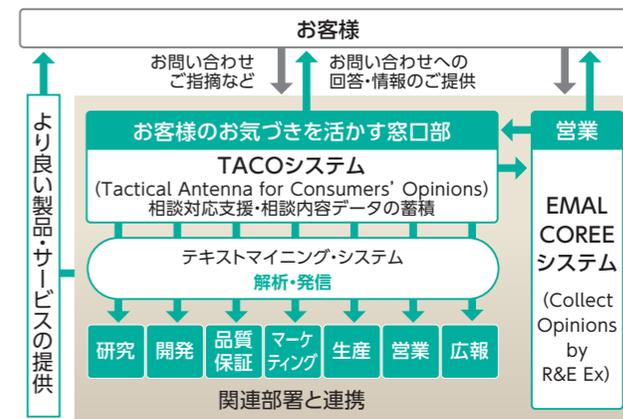
安心で快適な暮らしに貢献する製品・サービスを提供するため、当社グループは下記に取り組みます。 **KPIは、11ページ参照**

- お客様の満足と信頼を損ねる品質重大事故をゼロにするため、自社工場、製造委託先工場の定期品質監査実施率を向上させます。
- 関連法令を遵守し、違反につながる重大事故をゼロにするため、教育訓練年間計画の実施率を向上させます。

体制

「お客様のお気づきを活かす窓口部」では、「お客様のお気づき」を年報や月報などのレポートやイントラサイト「お客様の声」での社内発信、関連部署が「お客様のお気づき」をその部門視点で調査活用できるようにテキストマイニング・システムの普及を行っています。またそれだけでなく「お客様のお気づき検討会*」をはじめとする「気になる案件会議」「Voice of Customer会議」などの会議で「お客様のお気づき」から起案した改善案の提案・実行を直接関連部署に働きかけています。

* 公益社団法人 消費者関連専門家会議 (ACAP) が望ましいとする経営トップの関与した会議です。



製品・サービスの提供に関する取り組み

当社では、環境負荷の低減や循環型社会の形成に向けて、製品開発、資材調達、生産、物流、販売のバリューチェーン全体で、地球温暖化防止、省資源、廃棄物削減、化学物質の削減や適正管理などに取り組んでいます。

お客様目線の取り組み

【研究開発】

●社会に役立つ製品開発

「イヤな虫 ゼロデナイト」

2022年2月に発売した「イヤな虫 ゼロデナイト」は、新規有効成分テネベナール®を配合した不快害虫駆除剤です。テネベナール®は新しい効き方を持つ害虫駆除成分で、さまざまな害虫

に高い駆除効果があるだけでなく、1度の処理で1年間、駆除効果が持続するという驚くべき特長を示します。このテネベナール®を世界で初めて一般家庭用害虫駆除剤に使用したのが「イヤな虫 ゼロデナイト」です。今後もテネベナール®を使った製品開発で世界の人々のQOL（生活の質）の向上に貢献していきます。



【品質保証】

①製品試験時の試験担当者への安全配慮

原材料は、適切な試験項目と方法に基づいて評価し、製品は、法令に基づいた試験項目および製品機能に合わせた試験を実施しています。

一度に大量の試験検体を有機溶剤・試薬で処理するものを対象に、試験の信頼性・業務の効率化・試験従事者の安全性確保を目的として、処理作業の自動化を進めています。

③製品の継続的な安心・安全を確保する

製品は、薬機法等関係法令に基づき製造を行っています。品質維持のため、品質保証部・生産部門の定期的な勉強会・品質監査を実施、国内外を含めた生産委託先へも品質監査を実施しています。お客様から寄せられるご意見・ご要望も寄せられるご意見・ご要望も設計・生産部門にフィードバックすることで製品の品質向上を図っています。

試験データ改ざん防止においては、試験機器・成績書の作成管理を品質管理システムで、ログイン制限・パスワードを設定し、データの信頼性を確保しています。



「温泡」の有効成分含量測定用検体自動処理装置

②お客様目線における最終製品・実使用試験の実施

安心して使っていただくため、お客様が実際に使用される状況を想定した試験を行っています。

キケンから守る取り組み

●虫ケアステーション

マダニが媒介する感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」の感染者数が、2021年には過去最多を記録するなど、全国的に虫媒介感染症への警戒心が強まる中、当社では虫ケア啓発活動として、イベントやスポーツ競技の会場内に「虫ケアステーション」を出展しています。虫媒介感染症対策の啓発は当社の重要な使命であり、少しでも被害の減少に貢献できるよう、今後さらに「虫ケアステーション」による啓発活動を拡大していきます。



●虫ケアセミナー

虫媒介感染症の理解と虫ケア用品の正しい使い方を広める取り組みとして、「アース虫ケアセミナー2022」を開催しました。今年で3回目となる本セミナーは、「コロナ以外にも注意したい感染症」というテーマで実施しました。今後も学識者との連携による信頼度の高い情報を発信し、虫ケア啓発活動を進めていきます。



●ベトナムでのデング熱抑制に向けた取り組み

WMP®によるベトナム（ビンズオン省トゥザウモット市）でのデング熱防圧プログラムを2021年から支援しています。アース製薬とWMPは、同じ目標を共有し、SDGsの達成に向けて協働します。

※World Mosquito Program (WMP) は、世界中の人々を蚊媒介感染症から守るためにオーストラリアのモナッシュ大学の研究者らによって設立された非営利型イニシアチブです。



マテリアリティ「安心で快適な暮らしに貢献する製品・サービスの提供」の詳細は、WEBサイトをご覧ください。



経営基盤の強化

環境認識

アース製薬は、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組み、役員および従業員一人ひとりが、法令順守はもとより高い企業倫理に則ったコンプライアンスを徹底します。また、事業活動に影響するさまざまなリスクを適切に管理し、腐敗防止を徹底することによる公正な取引を行い、あらゆるステークホルダーから信頼される経営を推進していくことが重要であると認識しています。

コーポレート・ガバナンス

リスクマネジメント

コンプライアンス

アースグループ グローバル行動指針



「経営基盤の強化」の詳細は、
WEBサイトをご覧ください。



【ESGデータ】

当社のサステナビリティの取り組みに関連するデータをE（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）のカテゴリーにわけて掲載しています。

原則は2022年1月1日から2022年12月31日の範囲での取り組みに関するデータです。



「ESGデータ」の詳細は、
WEBサイトをご覧ください。



事業を通じた社会課題の解決

企業・団体によるCSR活動が重要視される中、教育に関するCSRへの関心が高まっており、当社でも教育現場への講師派遣（出前授業）やイベントの開催、教材の開発、サンプルの提供、施設見学、職場体験プログラムなどを行っています。

教育・啓発活動

●教育CSR

企業が社会の一員として教育活動に参加することを「教育CSR」と呼んでいます。当社では、社会貢献活動としてのさまざまな分野での取り組みはもとより、教育CSRによって子どもや地域住民が衛生害虫に対する正しい知識を身に付けることで虫媒感染症から身を守り、感染拡大を防ぐことが可能だと考えています。また、アース製薬・研究部で飼育している100種類以上の昆虫類を研究機関や高等学校などの研究および教育プログラムに役立てていただくことは、科学の発展や人材育成に役立つと認識しています。

教育CSRの一環として大学や高等学校などへの飼育昆虫譲渡や小・中、高等学校にて計15回の出前授業を行いました。



地域との連携

●自治体との包括連携協定

2020年3月24日に千代田区と「地域の安全安心で健康な暮らし」に係る包括連携協定を全国で初めて結び、全国の自治体に向けて締結を進めています。当社のノウハウや最新の技術を自治体に提供することで、保健衛生・教育・防災など多岐

にわたる社会課題の解決に取り組み、地域の人々と地域社会の持続的で健全な発展に貢献します。



大阪府との協定締結の様子

スポーツ・文化への協賛

●アース・モンダミンカップ

2012年の初開催から数えて今年で11年目を迎えた日本女子プロゴルフツアー「アース・

モンダミンカップ」。当社は、ゴルフ界、スポーツ界の発展のため、また社会貢献のために、「記憶に残る、心に残る、歴史に残る」大会を開催していきます。

大会会長 大家達也と、優勝した木村彩子選手



●女子プロサッカーチーム
「INAC神戸レオネッサ」と
スポンサー契約

女子サッカー・INAC神戸レオネッサを応援するために、2021年2月よりスポンサー契約を締結しました。所属選手とのコラボ企画やプロモーション活動を実施することで、青少年の健全育成や競技の普及促進などの社会貢献にも取り組んでいます。



●劇団四季ファミリー
ミュージカルに特別協賛

劇団四季のファミリーミュージカル『人間になりたがった猫』および劇団四季・一般財団法人舞台芸術センターが主催する「こころの劇場」に特別協賛し

ています。当社は、今後も子どもたちの健やかな成長に貢献できる活動に積極的に取り組んでいきます。



被災地支援

●ジャパン・プラットフォーム
との災害時の協働

2019年より紛争や災害時の緊急人道支援を行うNGO組織であるジャパン・プラットフォーム(JPF)が被災地などで実施する緊急支援活動に協賛し、支援体制の構築などに貢献しています。



物的支援

●余剰在庫の有効活用

2022年より余剰在庫となる製品を、経済的理由などで日用品や化粧品を手でできない方へ届ける「COSME BANK PROJECT」に参画しています。行き場を失う余剰在庫を単に廃棄するのではなく、製品を体験・PRする機会を積極的につくりながら、自立を目指す女性た

ちを応援し、貧困問題や健康と福祉、ジェンダーの平等、働きがいといった社会課題に向き合いたいと考えています。



本プロジェクト代表理事 山田メユミさんと川端代表取締役社長CEO

社外からの評価

●健康経営優良法人2022
～ホワイト500～

2019年「アース健康宣言」を制定し、オフィスでの予防接種の実施・麻疹・風疹の予防接種費用の助成、健康セミナーなどを実施。2020年、経済産業省と日本健康会議が共同で選ぶ「健康経営優良法人2021～ホワイト500～」に初認定を果

たし、2021年、2022年と連続して認定されました。今後も社員の健康管理の促進、長時間労働の是正など、職場環境整備を継続していきます。



●STOP感染症大賞グランプリ
一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会が制定する「第7回 ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2021」の感染症対策に資する先進的な取り組みを表彰する部門賞「第1回STOP感染症大賞」のグランプリを「MA-T™」で受賞しました。「MA-T™」の普及を通して、「MA-T™」の社会的信用の向上や産業創造による経済効果の拡大、社会課題解決の可能性を探ることをミッションと考え、活動しています。



授賞式に登壇した川端代表取締役社長CEOと桜井執行役員

イニシアチブへの参画

●国連グローバルコンパクト

国連グローバルコンパクト(UNGC)は、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組みです。当社ではこのUNGCに加盟し、今後もさまざまな社会課題解決を目指す事業活動を通じて、環境(E)はもちろん、社会(S)とガバナンス(G)の分野でグローバルに通じる ESG経営・CSV事業・サステナビリティ活動を推進していきます。



●TCFD提言への賛同

2022年10月にTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言への賛同を表明しました。アースグループは、持続可能な社会への貢献と企業の持続的な成長のために、サステナブル経営を推進しています。当社グ

ループのマテリアリティの一つである「気候変動への対応」に向け、TCFD提言に準拠した分析と検討を行い、情報開示に真摯に取り組んでいきます。



●CLOMA

当社は、海洋プラスチック問題の解決を目指すクリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)に加盟し、海洋プラスチック問題をはじめとする地球環境問題の解決に向け、

これからも環境に配慮した取り組みを強化していきます。



「事業を通じた社会課題の解決」の詳細は、WEBサイトをご覧ください。

